



東京浅草中央ロータリークラブ 週報

〒111-8765 東京都台東区西浅草3-17-1 浅草ビューホテル2階
TEL. 03-3847-1111 FAX. 03-3847-0154 URL: http://www.asachu-rc.jp

2015－2016年度テーマ

R.I. テーマ 「世界へのプレゼントになろう」

R.I. 会長 K.R. "ラビ" ラビンドラン

地区ガバナー 鈴木 喬

クラブテーマ 「"初心にかえろう" "ありがとう" "おかげさま" の心で」

クラブ会長 山尾 尚司



本日の卓話

「ロータークラブの活動を通して学んだこと」

東京浅草中央ローターアクトクラブ会長 小笠原 聰様

2016年5月11日

第1449回例会

会長 山尾 尚司

幹事 斎藤 彰悟

今後の卓話予定

5/18 「歴史の狭間に埋もれた偉人・カルシュ博士」

東京医科歯科大学名誉教授 若松秀俊様

5/25 「ガンについて」

医学博士 松本武夫様



5月お誕生日祝

13日(68才) 加藤昭雄君

15日(52才) 伊石佳高君

20日(51才) 岩田幸一君

20日(53才) 高木祐輔君



年間100%出席

原田 毅君 16回

宮村 義男君 12回

太田 富美夫君 5回

前回(4/20 1448回例会)の記録							
来訪者紹介							
◆ゲスト 1名						卓話者 山口栄一様	
◆ビジター 1名						東京浅草R.C. 林 英彦様	
出席報告							
総会員数	休会	出席免除	出席	欠席	出席率	修正	出席率
43名	1名	4名	33名	8名	80.49%	1446回例会修正	欠席2名・出席率95.24%

会長報告<山尾会長>

・4月14日に発生した熊本地震は今迄にない地震と言われています。5年前の2011年3月11日の東日本大震災以降、どれぐらいの地震があったのか検索してみました。マグニチュード6以上の主だった地震だけで、2012年3月に千葉・茨木、2013年2月に北海道十勝地方、4月に淡路島付近、2014年7月に福島沖、11月に長野県北部、2015年

5月に小笠原諸島西方沖、11月に薩摩半島西方沖と毎年のように地震が発生していることに驚きました。よほど、大きな被害が無ければ日常的に起こる地震に私達は感覚が麻痺しているのかもわかりません。東京も関東大震災以降、いつ起きても不思議では無いと言われていますが、他人事ではなく改めて気を付けたいものです。

幹事報告<斎藤幹事>

・次週4月27日（水）は、今期クラブが定めた4回目の休会日となりますので、お間違えないようにして下さい。なお、次回例会日はゴルデンウイーク後の5月11日（水）になります。また、5月度第一例会となり、終了後、理事・役員会を開催いたしますので、関係者の皆様、出席をお願いします。

・「30周年のあゆみ」につきましては、6月1日（水）に配布を予定しております。
・クラブ事務所の整理・清掃を5月7日（土）午後2時より、久保田さん・RACメンバーで行いますので、協力を頂ける方がいらっしゃいましたら、幹事までご連絡ください。

委員会報告

<青少年奉仕委員会 藤掛委員長>

・青少年奉仕情報16号

隔月に発行される地区内の青少年に関する活動情報誌です。当クラブに関しての記事も掲載されてます。ご覧いただき、青少年

奉仕への理解を深めて頂ければと思います。食と地域の分野で活躍する気仙沼の高校生を収録した小冊子「いっちゃん！気仙沼～高校生の未来の食とまちづくり～」もあわせてご覧ください。

ニコニコボックス

<山尾会長、斎藤幹事>

・山口栄一様、本日の卓話「俳句を楽しむ」を楽しみにしています。30分、風流の世界に浸りたいと思います。宜しくお願い致します。

<植木>

・本日卓話ををお願い致しました山口栄一さんを紹介させていただきます。

<上原、渡辺、宮村、原田、永井>

・本日の卓話「俳句を楽しむ」山口栄一様、宜しくお願い致します。

<永井、斎藤、浜中、太田、後上、天笠、山尾、上野、岩戸、海内、大塚、立野、岩田、原田、矢野>

・熊本地震被災者の皆様、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い地震の終息をお祈りいたします。

<後上、渡辺、藤掛、中村、斎藤>

・被災者救援隊の皆様、ご苦労様です。心より御礼申し上げます。

<太田>

・第100回ゴルフ同好会にて、優勝できました。ニコニコさせていただきます。

<浅野>

・第100回ゴルフ同好会、楽しく出来ました事、ありがとうございます。残念ながらスコアは最悪でした。

<長島>

・お誕生日のお祝いをして戴き、有難うございました。



「俳句を楽しむ」



山 口 栄 一 様

私は、定年後、日々の慰めに俳句や和歌を詠み始めた好事家でしかありませんが、俳句の楽しみについてお話をできればと思います。

現在の俳句人口は数百万人ともいわれています。世界を眺めてもこんなに国民に広がっている文芸はありません。俳句は「日本の詩歌の伝統的な韻律（リズム＝五七五）を持った短詩」で、だれにでも作ることの出来るやさしい親しみやすい文芸です。

俳句の楽しみ

「読む」楽しみ。

「詠む」楽しみ。俳句は「読む」ことだけでなく、「詠む（作る）」楽しさのほうがずっと大きいものです。

今日の企画では「淺草」をみんなで詠むということを提案して、まず作ってみることでその楽しさを分かつて頂けたらと願います。

日ごろお作りになっている方もおられると思いますが、俳句の楽しみを広める活動のひとつとご一緒していただければと存じます。

一般に言われる作句の条件は、以下の三つです。

① 「五七五」の音数律にする。②「季語」を使う。③「切れ」がある。

早速、俳句を詠んでみましょう。話を聞きながらお考えいただければと思います。

1、今日のテーマ（席題）は「淺草」です。
「（席唐・淺草）」に季語を添えて・・・、
で五七五にまとめる。

まず、テーマで想起できる名やもの・行事・情景をあげてみましょう。

2、「切れ」について
「切れ」は、「語と語の衝突による展開」、

「場面転換や完結独立感」「余韻余情」など様々な効果を期待するものです。（「闇の夜は吉原ばかり月夜哉 其角」。切れは、スイッチのような働きをします。）

3、「季語」について

季語とは、春、夏、秋、冬、新年の五つの季節をあらわす言葉です。

季語は3つの特性を持っていると言われます。・季節感・連想力・象徴力です。

季語と言うものは、ただ単に季節を表すだけでなく、その本意を持って描写と響き合い、作者の想いを表現する力を備えているのです。描写と季語の取り合わせにおいて、その二つが近すぎてイメージの広がりの無いものを「つきすぎ」、逆に、あまりにもイメージが遠すぎて結びつかないものを「離れすぎ」と言います。

4、俳句の基本

「何がどうしてどうなった」とすべてを言ってしまっている句、描写と季語がツキスギの句、動詞の多い句などは、どれも説明的で「くどい句」ということになり、一般には嫌われます。そのため、「すべては言わない」「描写と季語はほどよく離す」「一句一動詞」というのがまずは俳句の基本になると考えるといいと思います。

5、句作に必要なものは、とりあえずは、鉛筆と句帳に、歳時記（と国語辞書）だけです。

俳句を詠む楽しさは、決まったフレーム（五七五）にひとつ世界を表現する（写真を撮る面白さ　自己表現）にあると思います。俳句は座の文芸です。さらなる楽しみは、仲間と詠み合うことにあります。句会・吟行を通して俳句を楽しんでいただきたいと思います。